

# 秋津遺跡第4次調査下層出土のノコギリクワガタについて

調査原因：京奈和自動車道「御所区間」建設

遺跡の所在地：御所市大字條・池之内

調査期間：2010(平成22)年6月15日～2011(平成23)年2月18日

調査面積：下層遺構面 2,150 m<sup>2</sup> (上層遺構面 11,793 m<sup>2</sup>)

今回の発掘調査では、古墳時代前期の大型建物や方形区画施設群、弥生時代中期の水田関連遺構、縄文時代晩期<sup>ばんき</sup>(約2700年前)の流路<sup>りゅうろ</sup>が確認されました。流路の周辺<sup>じゅこん</sup>では樹根や水辺を利用した際に廃棄された遺物を確認しました。

ノコギリクワガタは、流路の南岸で検出した樹根(アカガシ亜属)の下より出土しました。流路や樹根の間からは縄文時代晩期後半の土器や石器、土製品<sup>どぐう</sup>(土偶)等が見つかっており、ノコギリクワガタの埋没時期も、縄文時代晩期後半であると考えられます。

出土したノコギリクワガタはオスで、大アゴの形状や体長から、大型の個体といえます。部分的に欠損していますが、全身が良好な状態で残っています。体表の傷が少ないことや爪の状態などから、羽化<sup>うか</sup>後の活動期間が短い個体と考えられます。

遺跡からのノコギリクワガタの出土例は少なく、今回のようにほぼ全身が出土した例はありません。遺存状態が良好であることから、考古学の資料としてだけでなく、昆虫学の研究資料としても期待でき、全国的にみても極めて貴重な資料であるといえます。



ノコギリクワガタ出土状況